



オートクチュールドレスの構造と 特殊素材の縫製技法の研究

2020 年度桑沢デザイン研究所
教育研究助成金研究成果報告書

辺見小百合

Cocktail dress



Idea sketch 1

Evening dress



Idea sketch 2

「2020年度研究助成金によるドレスの制作」

研究タイトルは「オートクチュールドレスの構造と、特殊素材の縫製技法の研究」とする。

特殊素材でオートクチュールのカクテルドレスを仕立て、市販のプレタポルテとの縫製技法と仕様の違いや、特殊素材の扱いなども研究する。

また、その技法を授業で紹介することを目的に、2年計画で2着のドレス(特殊素材別)を制作する。

今回はシルクサテンという素材を2色使用した。また白色の身頃部分にオートクチュール刺繍を用いた。

Cocktail dress



Idea sketch 3

Evening dress



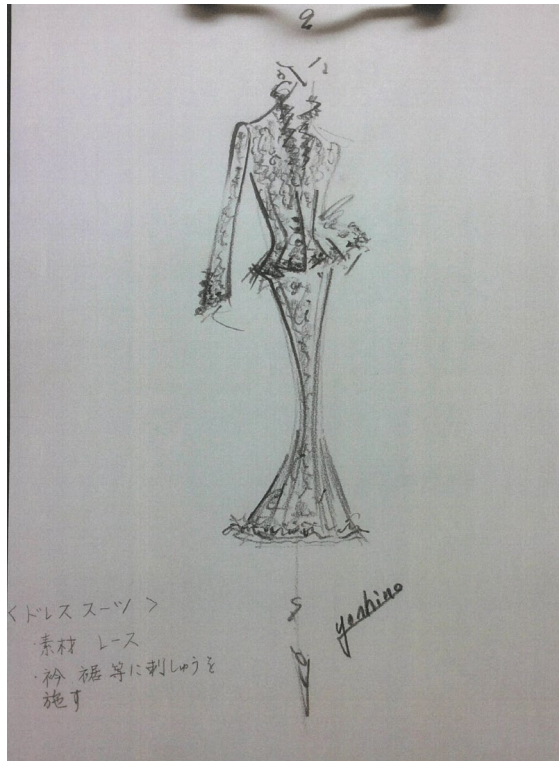
Idea sketch 4

研究背景は以下の通りである。研究所では長年オートクチュールの技法を使い制作する授業(植田いつ子先生)があったが、総合デザイン科となり現在はその技法を学生達に伝える機会も少なくなった。この研究を通して得た知識を多くの学生に伝えたいとの目的がある。

今回のドレスはオートクチュールの特殊技法で制作するにあたり、サロンドヨシノの吉野雅彦先生に制作を依頼した。また、1着目イブニングドレスの刺繍は刺繍アトリエ Lemmikko に依頼した。

吉野雅彦先生は植田いつ子先生のアトリエで長年、上皇后陛下の衣装を仕立てたという大きな実績があり、その卓越した特殊技法を今回のドレスの制作過程で多く反映されている。2着とも予算の問題で吉野先生にはカクテルドレスを依頼したが先生の御好意で1着目はイブニングドレスが仕上がった。

Cocktail dress



Idea sketch 5

Evening dress



Idea sketch 6

ドレスにはシーンによりいろいろなドレスの種類があり、イブニングとカクテルドレスの違いを簡潔に記載しておく。

ドレスコードは、格式が高い順に「正礼装」、「準礼装」、「略礼装」と3つに分けられている。イブニングドレスは正礼装に分類され、洋装のなかではもっとも格式が高い女性の服装となる。また、イブニングドレスは夜会服ともよばれ、17～18時頃にはカクテルドレスを、そして、それ以降の時間帯に着るのがイブニングドレスである。

カクテルドレスはイブニングドレスを簡略化したもので、ドレスコードでは準礼装にあたる。カクテルドレスとイブニングドレスは、着る時間帯以外に、デザインも少々異なっていて、最もわかりやすい違いは、裾の長さである。イブニングドレスがフルレングスだったのに比べ、カクテルドレスはノーマルからミディ丈が一般的である。

「like forget-me-not」



「forget-me-not」

ドレスのイメージに合わせてネーミングすることにした。

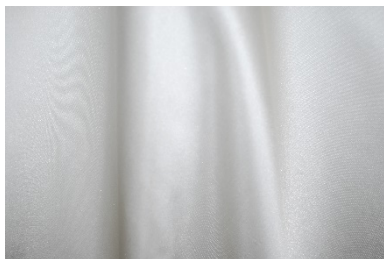
刺繍を依頼した刺繍アトリエ Lemmikko (レンミッコ) はフィンランド語で勿忘草の意味があり、今回の刺繍も勿忘草をイメージさせるので勿忘草のような貴婦人という意味の「Lady like forget-me-not」と命名した。

参考として勿忘草(ワスレナグサ)の原産地はヨーロッパである。勿忘草(ワスレナグサ)の花といえば、鮮やかな青色をイメージする場合が多いが白やピンクの花を咲かせる種類もある。今回の刺繍のイメージは白い花である。

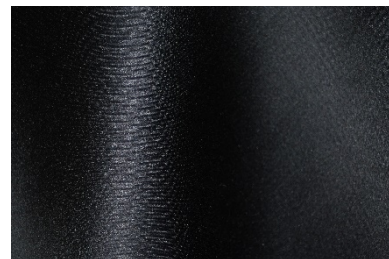
Idea sketch 6～Modeling



生地



・身頃刺繍部分の生地
シルクサテン白色



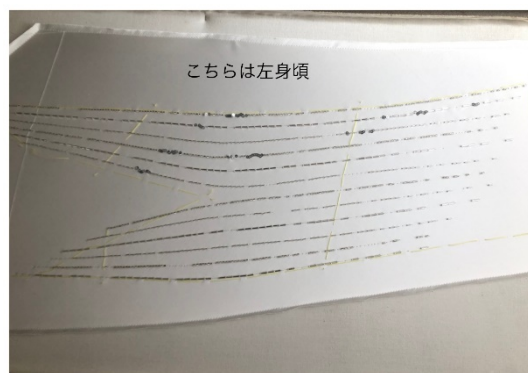
・身頃刺繍部分の生地
シルクサテン黒色

Embroidery sewing process

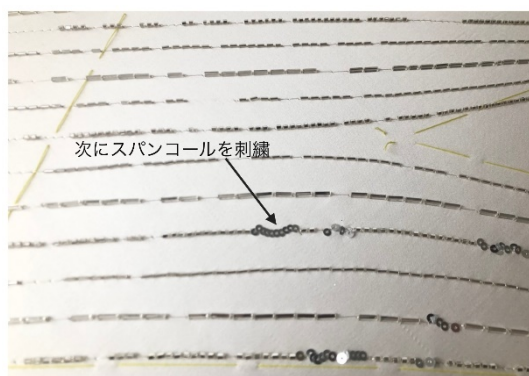
刺繡縫製工程



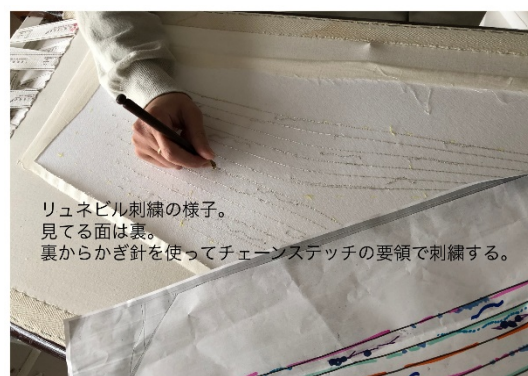
1.



2.



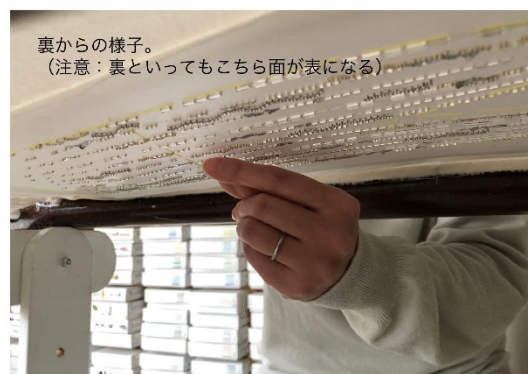
3.



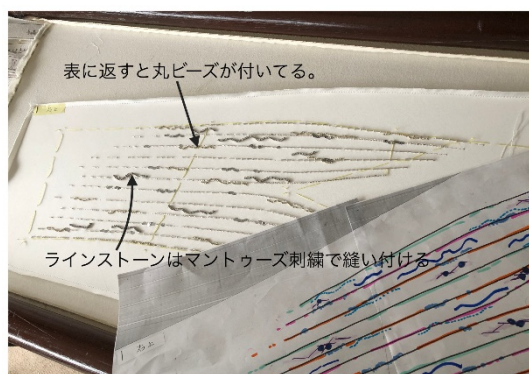
4.



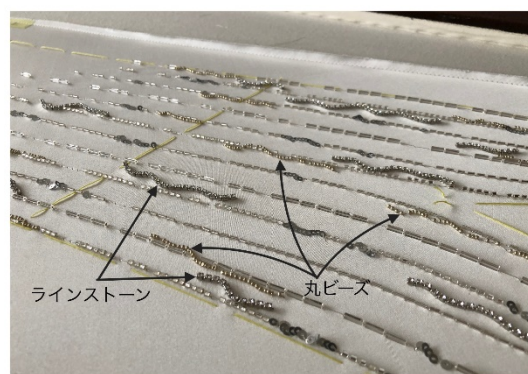
5.



6.



7.



8.



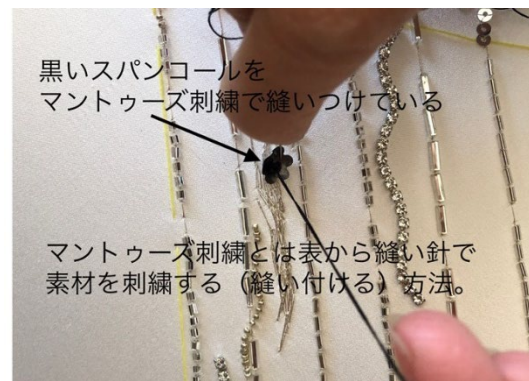
9.



10.



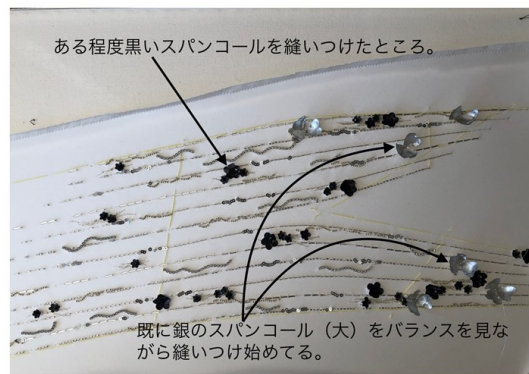
11.



12.



13.



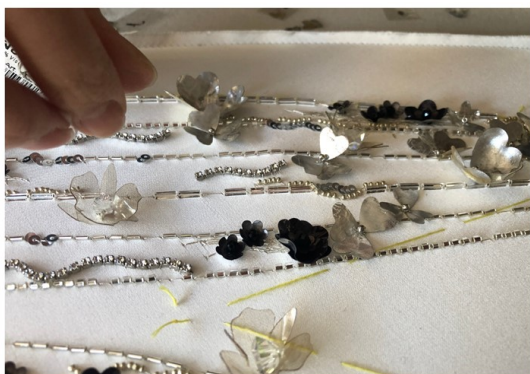
14.



15.



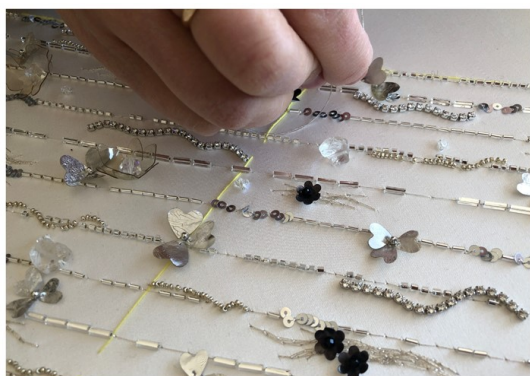
16.



17.



18.



19.



20.



21.



22.

刺繍の名称：オートクチュール刺繍

刺繍のテクニック（技法）：（１）リュネビル技法 （２）マントウーズ技法

刺繍アトリエ Lemmikko

Shiro SHIBATA 柴田士郎

Akiko OGAWA 小川明子

Dress sewing process

ドレス縫製工程



- ・ペチコート 素材は厚手の裏地を使用
裾芯はホースヘアとボーン使用



- ・身頃上台の制作
表地はサテン、裏張りはダブルオーガ
ジー、縦線の縫い目にボーンを入れる





- ・スカートの制作
裾芯はホースヘアで見返し仕様にする



- ・後中心にファスナーを付けて身頃に縫い付ける



- ・刺繍をした白シルクサテンの身頃が
付く



- ・芯地は毛芯仕様で、左右別々に制作し
土台のドレスに縫いとめる



・完成写真



・刺繍部分の写真

ドレス制作依頼先 株式会社 サロンド ヨシノ

吉野雅彦先生のプロフィール

1977 年 桑沢デザイン研究所ファッションデザイン科卒業

植田いつ子アトリエ入社

顧客の他、皇室の方々のお洋服制作に携わる

1990 年 植田いつ子プレタポルテのデザイナーとして既製服制作に携わる

2012 年 オートクチュールアトリエのサロン ド ヨシノ設立 現在に至る。



正面写真



右側写真



左側写真



後側写真

研究テーマ：オートクチュールドレスの構造と

特殊素材の縫製技法の研究

作品 イブニングドレス

素材 シルク 100%

生地名 サテン

サイズ 7号サイズ

発注先 株式会社 サロンド ヨシノ

刺繍アトリエ Lemmikko